

福岡次世代社会システム 創出推進拠点

社会ニーズ主導型開発による新成長産業の発展促進

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…福岡県ロボット・システム産業振興会議 ほか
学…九州大学、北九州市立大学、福岡大学 ほか
官…福岡県産業・科学技術振興財団、福岡県、
北九州市、福岡市 ほか
金…日本政策投資銀行、日本政策金融公庫 ほか

地域イノベーション戦略

本地域では、これまでに育成してきた先端半導体をはじめとする産業の国際競争力をさらに高め、世界トップクラスのイノベーション拠点「福岡次世代社会システム創出推進拠点」の形成を図ります。そのために、高度情報社会、健康・長寿社会等の世界が直面している課題に対応し、課題解決を目的とした多様な次世代社会システムの開発を積極的に実施し、「社会ニーズ主導型研究開発モデル」の確立に取り組むとともに開発成果の国際標準化を強力に進めます。

【事業概要】

1. 地域構想を担う研究者の集積

11の研究テーマについて、本プログラムの支援により、研究代表者の下に国内外から次世代の地域イノベーション活動を担う優秀な研究者を地域の大学等研究機関に招へいし、開発を進めてきました。

2. 地域人材育成プログラムの開発及び実施

ハード、ソフト、サービスを複合化したシステム化技術に対応できる人材育成の社会ニーズに対応するため、これまで開発してきた講座に加えて、企業ニーズに対応して適宜、新しく講座を開発して、企業の製品開発やサービス開発に応じた講座体系を構築し、実施しています。

3. 地域連携コーディネータによる知のネットワークの構築

大学等研究機関や企業からの情報収集・整理・共有によるシーズとニーズのマッチングのほか、異分野との融合・連携等を行うために地域連携コーディネータを配置し、研究テーマ立ち上げから事業化に至るまでの各段階できめ細やかな支援を行っています。

4. 三次元半導体実装技術の開発支援

三次元半導体研究センターでは、半導体チップを積層することにより高密度化を図る三次元実装に必要な工程の装置を整備・開放しています。本プログラムでは、装置の扱いに熟練した技術スタッフをセンターに配置し、利用者の技術サポートを実施しています。



プロジェクトディレクター
神谷 昌秀

昭和63年福岡県庁に入庁
平成18年商工部 新産業プロ
ジェクト室 室長 平成25年
福岡県工業技術センター 所長
平成30年(公財)福岡県産業・
科学技術振興財団 ロボット・
システム開発センター長

主な成果

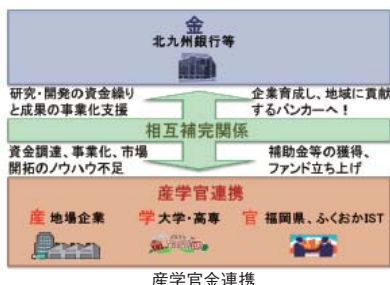
1. 地域企業支援体制の確立

研究開発の成果を地域の雇用効果、経済効果、企業誘致へつなげる取り組みを実施しています。

(株)ソフトサービスは、(株)カシワ、大阪大学との共同研究により、極小マーキングのためのレーザーマーカを開発しました。トレーサビリティや模造品・偽造品対策などの需要に対し、市場の要望に応える「極小・高精度・高品質」のレーザーマーカです。地域連携コーディネーターが、競争的資金獲得等の開発推進を支援しました。

また、イノベーションの起こりやすい環境を形成するため金融機関と連携を図りました。地元銀行が行っているベンチャー支援ファンド、第二創業支援ファンドの支援先について企業を紹介し、両者に有効な投資になるよう、技術評価の支援を行ったほか、行員向けに技術開発支援の公的資金獲得方法等の講習会や、地元銀行、地域企業と「事業化の前段階での資金供給」について相談会を実施しました。

本プログラム終了後は、大津留前プロジェクトディレクターを代表として設立された一般社団法人OSTi(オスティ)が、継続して産学官連携による地域イノベーション創出をめざして活動を行います。



レーザーマーカ

2. 国際標準化 (IEC国際標準) の規格成立

現在、プリント配線基板の表面に電子部品を配置・積層した電子機器が製造されていますが、今後は更なる高機能化等のため、電子部品を配線基板に埋め込む、部品内蔵基板の技術が必要になると考えられます。福岡大学は国内の関連学会・工業会と協力して、世界に先立ち、部品内蔵基板の製造方法、検査方法を規格化し、平成27年5月にIECから世界標準として認められました。この規格が認められたことにより、製品の小型・薄型化に向けた国内メーカーの競争力強化に貢献していくことが可能となります。



IEC62878 国際標準化成立

また製造方法、検査方法に続き、設計する際のデータフォーマット規格を国際標準にするため取組んでいます。

3. 社会の変化に対応する人材育成拠点の形成

ハード、ソフト、サービスを統合する一気通貫のシステム化技術に対応できる人材を育成するため、これまでに開設してきたLSI設計、組込ソフトウェア、半導体実装関連の講座を引き続き実施するのに加え、社会的にニーズが高まっているAI/IoT関連のデバイスやシステム、サービスに対応したセミナーや技術講座を開発、実施しています。そして新規及び既存の講座を体系化した「システム開発技術カレッジ」により、AI/IoTを駆使した情報システムの開発とそれを活用した新しい価値の提供ができる人材の育成を総合的に支援しています。この中で新たに開設する講座は技術だけではなくビジネスの面も考慮しており、持続的なイノベーションを起こすための次世代の人材の拡大を担うものとなっています。

